

地域協働学部

BRAND BOOK

# 86

---

# 47

## 地方国立大学の イミって 何だろう？

全国47都道府県に、国立大学は86校。

私立をあわせると、800校におよぶ大学が存在するニッポン。

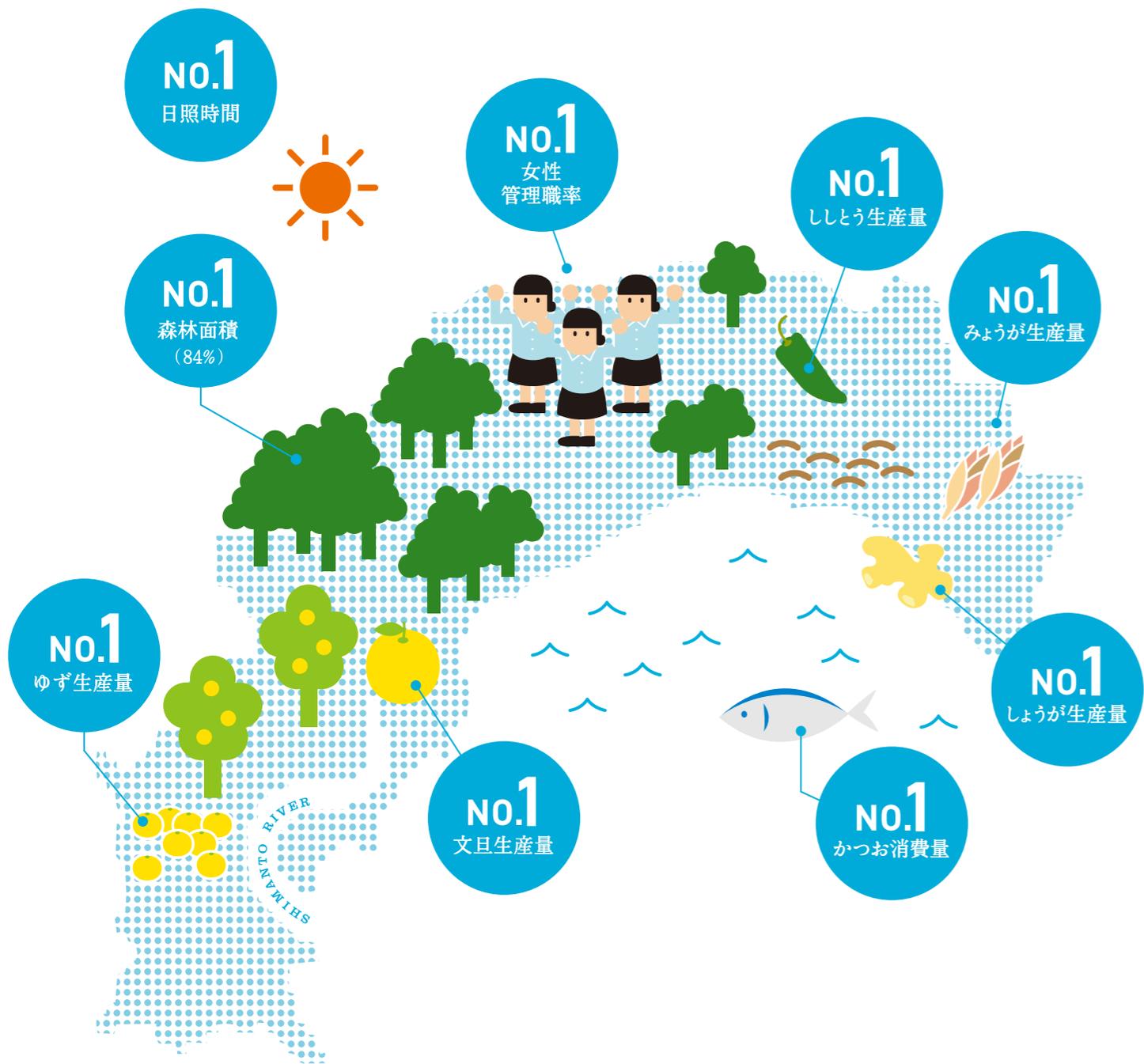
けれど、子どもの数は31年連続で減少しています。

そんな時代に、「都会でなく地域」の国立大学をあえて

選択するイミとは、何でしょうか？



高知大学は考えました。



ゆたかな資源を誇り、全国有数の特産物に恵まれた、高知。  
 この地域に根ざし、地域ならではの「幸」を活かした教育が大学でできないだろうか？



それが、  
「**地大**学」  
という考え方。

日本全国にまでその名を知られる、地鶏や地魚といった名産物。

地のモノと呼ばれ愛される地域ブランドは、

その風土、気候、人だからこそ育まれた特産です。

そんな、「その土地ならではの」の産物にトクベツな価値があるように、

その土地でしかできない教育もあるはず。

そう考えたとき、いまの日本でもっとも重要な「地域」という課題が、

すぐ目の前に広がっていました。

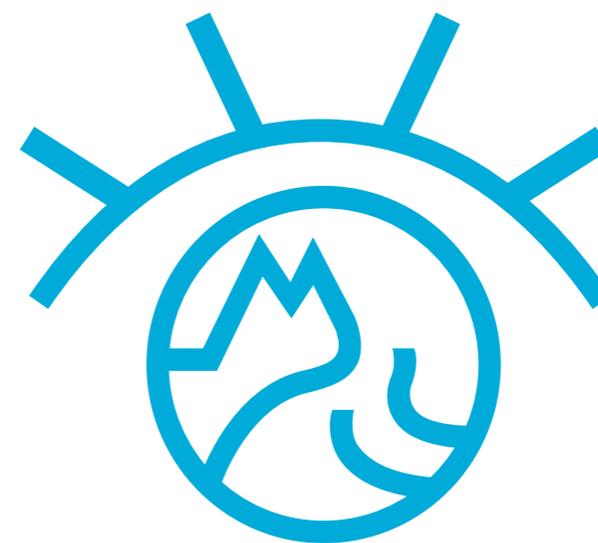
地域社会の問題を解決する能力は、地域でしか身につかない。

都市にはできない、「この場所」を強みにした教育を、高知からスタートしよう。

未来へ向かって、いま、「地大学」という発想が動き出します。

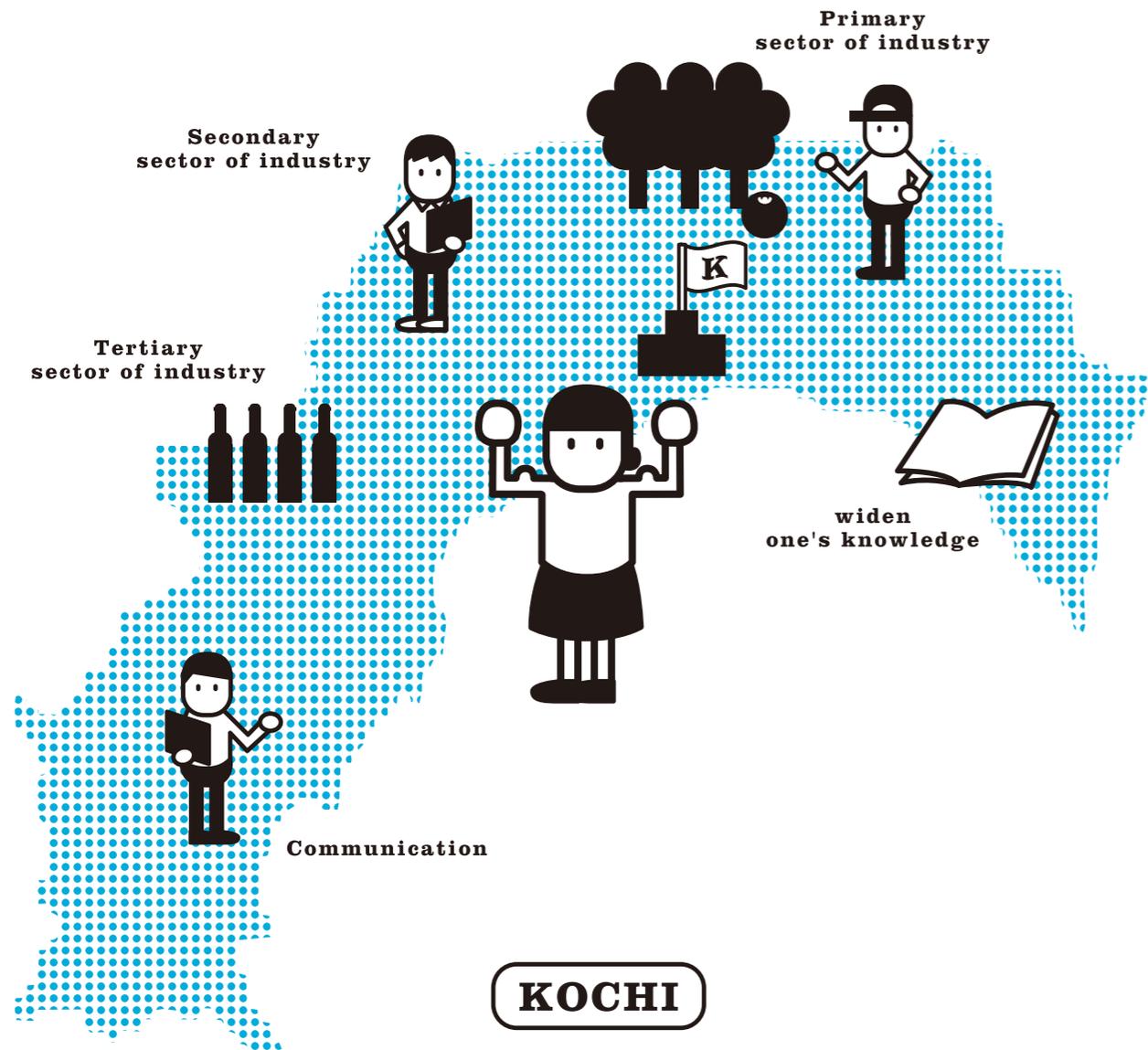
高知から全国に  
新しい教育を提案します。

地域協働学部です。



地域協働学部

では、地域協働学部とは・・・？



地域協働学部のテーマ

# 産直教育

産地がはっきりとわかる、つくり手の顔が見える野菜に価値があるように。地域社会から直に学ぶ「産地直送」の教育をはじめます。あらゆる産業の「実地」で主体的に動くことによって、地域ビジネスに必要な能力を身につけていく。地元への理解を深めていく。イキがよく、栄養たっぷりの人材を育てます。

地域協働学部の特長

## 県全部が キャンパスシステム

「超フィールドワーク」を実践します。坂本さんちの畑も、中岡さんちの商店や工場も、企業や官庁も。約7,105㎢の高知がまるごとキャンパス。暮らしている人みんなが教員。「協働」することで地域によるこんでもらいながら、自ら課題を見つけ出し、解決する能力を身につけます。

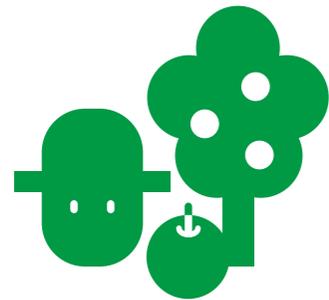
1

×

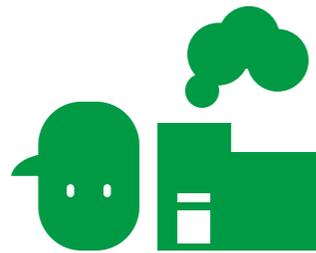
2

×

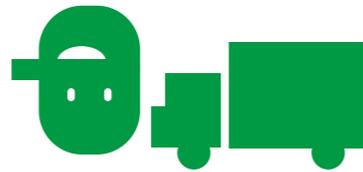
3



生産



加工



流通

||

6



付加価値・利益

地域協働学部が目指すもの

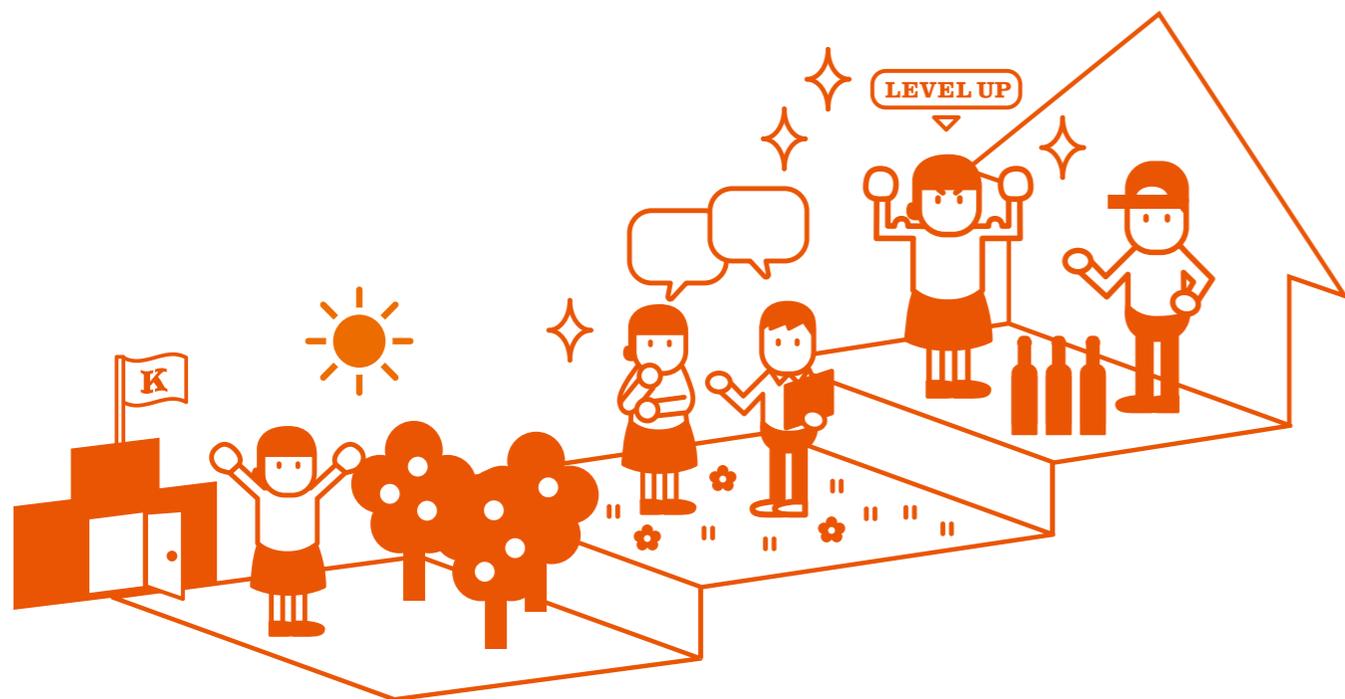
## 知農工商

6次産業で起業できるスキルをすべての学生へ。  
産・官・学がコラボする専門ゼミのほか、さまざまな  
ジャンルの教授や特別講師とも連携。フィールドワーク  
で鍛えた「農工商の育てる・つくる・売る」技能に「知」  
をかけあわせ、リーダーとして活躍する力を培います。

つまり、地域協働学部は

## 放し飼い教育

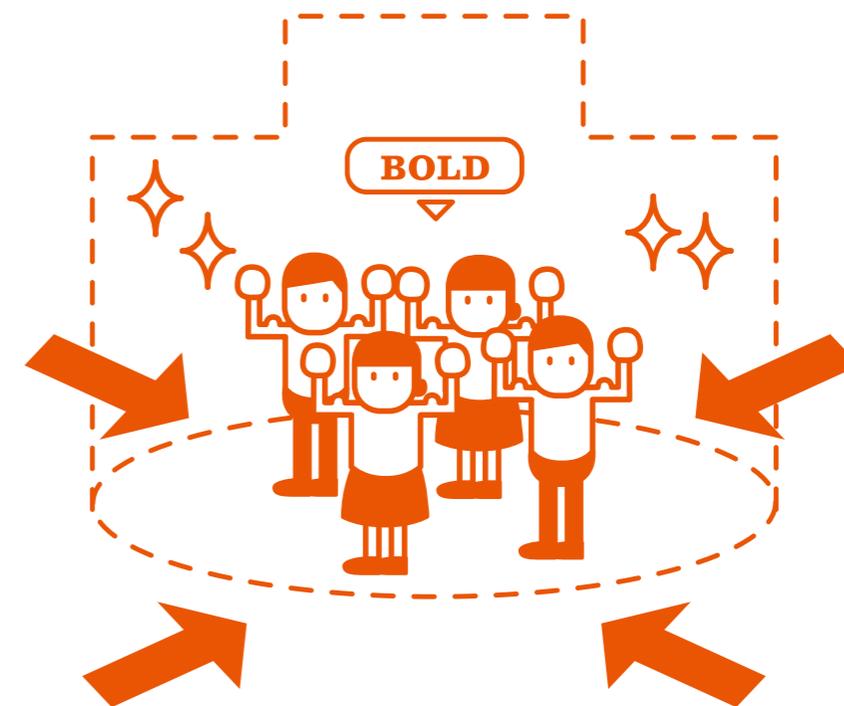
学生の成長を見守りながら、いろいろな土地で「放し飼い」に。  
与えられた環境だけで育った受け身の人材ではなく、  
自らの行動によって実力を鍛えた力強い人材へ。



さらに、

## もどりガツオ教育

初々しい初ガツオ（新入生）が  
いろいろな土地で荒波にもまれ、たっぷりとアブラをのせて戻ってくる。  
その成果を授業で発表しあい、さらに「おいしい」成果へと。



そんなカリキュラムで学生を育てます。



高知大学地域協働学部では、高知県内の資源はもちろん、  
全国の資源を発掘・活用し、  
社会を変えることのできる学生を輩出します。

また、起業を含む、就職率100%を目指します。

そして、  
一本釣りされる人材へ。

